

# ブレイデンスケール:Braden Scale

利用者名: \_\_\_\_\_

評価日: 年 月 日

評価者: \_\_\_\_\_

知覚の認知	1.全く知覚なし	2.重度の障害あり	3.軽度の障害あり	4.障害なし	点数
圧迫による不快感に対して適切に対応できる能力	痛みに対する反応(うめく、避ける、つかむ等)なし。この反応は、意識レベルの低下や鎮静による、あるいは体のおおよそ全体にわたり、錯覚の障害がある	痛みのみ反する。不快感を伝える時には、うめくことや身の置き場なく動くことしか出来ない。あるいは、知覚障害があり、体の1/2以上にわたり痛みや不快感の感じ方が完全ではない	呼びかけに反応する。しかし不快感や体位変換のニードを伝えることが、いつでもできるとは限らない。あるいは、いくぶん知覚障害があり、四肢の1,2本において痛みや不快感の感じ方が完全ではない部位がある	呼びかけに反応する。知覚欠損はなく、痛みや不快感を訴えることができる	
皮膚が湿潤にさらされる程度	1. 常に湿っている	2. たいてい湿っている	3. 時々湿っている	4. めったに湿っていない	点数
活動性	1. 臥床	2. 坐位可能	3. 時々歩行可能	4. 歩行可能	点数
行動の範囲	寝たきりの状態である	ほとんど、または全く歩けない。自力で体重を支えられなかったり、椅子や車椅子に座る時は、介助が必要であったりする	介助の有無にかかわらず、日中時々歩くが、非常に短い距離に限られる。各勤務時間中にほとんどの時間を床上で過ごす	起きている間は少なくとも1日2回は部屋の外を歩く。そして少なくとも2時間に1回は室内を歩く	
可動性	1. 全く体動なし	2. 非常に限られる	3. やや限られる	4. 自由に体動する	点数
体位を変えたり整えたりできる能力	介助なしでは、体幹または四肢を少しも動かさない	時々体幹または四肢を少し動かす。しかし、しばしば自力で動かしたり、または有効な(圧迫を除去するような)体動はしない	少しの動きではあるが、しばしば自力で体幹または四肢を動かす	介助なしで頻回にかつ適切な(体位を変えるような)体動をする	
栄養状態	1. 不良	2. やや不良	3. 良好	4. 非常に良好	点数
普段の食事摂取状況	決して全量摂取しない。めったに出された食事の1/3以上食べない。蛋白質・乳製品は1日2皿(カップ)分以下の摂取である。水分摂取が不足している。消化態栄養剤(半消化態、経腸栄養剤)の補充はない。あるいは、絶食であったり、透明な流動食(お茶、ジュース等)なら摂取したりする。または、末梢点滴を5日間以上続けている	めったに全量摂取しない。普段は出された食事の約1/2しか食べない。蛋白質・乳製品は1日3皿(カップ)分の摂取である。時々消化態栄養剤(半消化態、経腸栄養剤)を摂取することもある。あるいは、流動食や経管栄養を受けているが、その量は1日必要摂取量以下である	たいていは1日3回以上食事をして、1食につき半分は以上は食べる。蛋白質・乳製品を1日4皿(カップ)分摂取する。時々食事を拒否することもあるが、勧めれば通常補食する。あるいは、栄養剤のおおよそ整った経管栄養や高カロリー輸液を受けている	毎日おおよそ食べる。通常は、蛋白質・乳製品を1日4皿(カップ)分以上摂取する。時々間食(おやつ)を食べる。補食する必要はない	
摩擦とずれ	1. 問題あり	2. 潜在的に問題あり	3. 問題なし		点数
	体動のためには、中等度から最大限の介助を要する。シーツでこすれずに体を移動することは不可能である。しばしば床上や椅子の上ですり落ち、全面介助で何度も元の位置に戻すことが必要となる。痙攣、拘縮、振戦は持続的に摩擦を引き起こす	弱々しく動く、または最小限の介助が必要である。移動時、皮膚はある程度シーツや椅子、抑制帯、補助具などにこすれている可能性がある。たいていは椅子や床上で比較的よい体位を保つことができる	自力で椅子や床上を動き、移動中十分を支える筋力を備えている。いつでも、椅子や床上で要体位を保つことができる		
加点項目			2. 全く危険性なし		加点
			17点以下であるが、現在の皮膚状態、日常のケア方法から考え、褥瘡の危険性が全くない。		
					TOTAL

## <評価方法…ブレイデンスケール>

褥瘡発生のリスク・ファクターをアセスメントする1つの方法として褥瘡形成危険度チェック・リスト(Braden Scale)があります。これは新規入所者、現在、利用中の住民さんに褥瘡が出来やすいかどうかを採点方式によって判断するもので、使用法は6つのカテゴリーごとに患者の状態を評価して点数をつけるというものです。ブレイデンスケールでは点数が低いほど褥瘡の発生リスクは高くなり、**一般的に17点以下は要注意**です。

Copyright : Braden and Bergstrom, 1998 訳 :

真田弘美 (金沢大学医学部保健学科) / 大岡みち子  
(North West Community Hospital, IL, U.S.A)



エーデル士山 褥瘡対策委員会  
Edel tutiyama bed sore a measure committe